

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校定時制の課程は昭和 23 年の設置以来、「明るく生き生きとした学校生活を通して、真理と平和を愛し、勤労と責任を重んじる、心身共に健全な社会の有為な形成者の育成」を不易の教育目標としています。

「確かな学力」「豊かな人間性と規範意識」を身に付けた生徒の育成、「生徒支援と安全安心な学校づくり」をめざして、生徒一人ひとりを大切にして、「入ってよかった」と言われるような学校をめざしています。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成（学習活動の充実）

個々の生徒に応じた確かな学力の育成と授業改善の取組み

- ア 生徒の学力に応じた教育内容を設定し、基礎学力の育成など、確かな学力を身に付けさせる。（授業理解度 2021 年度 92%）
- イ ICT を活用した授業や主体的協同的な学びをめざした授業に取り組むなど、授業の質的改善を図る。
- ウ 校内の公開研究授業や研修を通じて、個々の授業力をさらに向上させる。
- エ 少人数展開・TT によるきめ細かな授業などをできる限り推進する。
- オ 授業改善により生徒の資質・能力を高める授業を行い、生徒に付けたい力を意識した授業を行う。

2 豊かな人間性と規範意識を身に付けた生徒の育成

規律ある学校生活を通して、豊かな心を育成し、将来を切り拓く生きる力を育む

- ア 生徒の基本的な生活習慣や学習習慣の確立を指導し、規範意識の醸成に努める。（年間の生徒登校率を、2021 年度 85%以上にする。）
- イ 特別活動や行事を充実して生徒の参加意欲を高め、自尊感情（自己肯定感・自己有用感）を育成し、良好な人間関係づくりを指導する。
- ウ 全学年でキャリア教育や進路指導を充実させ、自己実現の意欲を喚起し、進学・就職を希望する生徒の進路決定率を 100%になるように努める。（進路決定率 2021 年度 90%以上にする。）
- エ 生徒の自主的な活動である部活動や生徒会活動の活性化に努める。
- オ 18 歳より選挙権を持つ事を見据え、社会の一員として求められる政治的教養や判断力を計画的に育成する。

3 生徒支援と安全安心な学校づくり

生徒の個に応じた支援と、生徒が自分らしく安心して通える学校づくり

- ア 学校全体として健康安全教育や交通安全教育を推進し、生徒および教職員の健康増進と安全確保を推進する。
- イ 全教職員が一致した協力体制を構築し、問題事象等には、迅速で適切な対応を図る。
- ウ 人権教育を推進し、様々な人権課題の解決に取り組む。
- エ 高校生活支援カードの活用など、生徒情報の収集と共有化を図り、SC 等の教育相談や配慮を要する生徒支援をスムーズに行う。
- オ 家庭、地域との連携を推進し、情報発信を積極的に行い、開かれた学校づくりに努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>☆学校教育自己診断アンケートについて、項目の見直しを行い、生徒用・保護者用は 15 項目、教職員用は 32 項目に増やした。</p> <p>○生徒の評価から 生徒からは、ほぼ全項目で肯定的な回答が得られた。いじめへの対応 85.7%、学校のルールを守る 85%、命の大切さ・社会のルール 82.5%、相談できる教員 72.7%では、教育相談体制・人権教育についての取組みが評価されている。進路をしっかりと考える 79.3%は、過去 2 年間の数値を大きく上回り進路指導の取組みも功を奏している。しかし、授業中の学習の雰囲気 2 年 (50%) 4 年 (45.5%) で、学年によっては、授業規律の徹底を進めなくてはいけない点も明らかになった。</p> <p>○保護者の評価から 前年度から回答数が 3 倍になった。否定的な項目がなく、全項目で 70%を上回っており、学校が信頼されている結果となった。ただ「わからない」がどの項目でも 10%以上あり、保護者への情報発信をどうするのかという点と、学習指導に関する項目の肯定率が他項目に比べ低く（授業楽しい 76%、落ち着いた学習環境 72%）、「基礎の勉強をしてほしい」というように要望欄に記載されていることから、わからない生徒への指導をいかに行うか、学校としての取組みが求められている。</p> <p>○教職員の評価から ICT 活用・ケース会議 100%、准校長のリーダーシップ 88%、教育相談体制・カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導・家庭との連携・キャリア教育と進路指導・いじめ対応 81%など高い項目がある一方で、教職員が日常的に話し合う 69% (25%減)、評価を次年度に行かず 38% (40%減)、校内研修の有効的な実施 38% (29%減)、初任者支援体制 44% (34%減) は大きく肯定率が減少した。また、部活動の活性化 13%、生徒会活動 25%、生徒指導に対する教員間のコンセンサス 25%のように、課題は多い。生徒数が減少し、全校生徒数 90 名を下回る状況で、部活動の活性化、生徒会活動の活性化を図る方策を考える必要がある。</p>	<p>第 1 回 (6/6) 授業見学を行った上で、今年度の学校経営計画の内容と重点事項、学校教育計画の説明、各分掌からの取組み計画などについて意見をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校経営計画については「総合的な探究の時間」の具体的な実施内容と評価の仕方について、192 時間の時間配当があった SC と SSW の活用の仕方についてそれぞれ質問があった。 ○ 学校教育計画や各分掌の取組みについては、授業日数の確保の仕方、定通併修の実施形態、生徒数の減少理由、ハローワークや職業体験などへの生徒の参加数、生徒の居場所としての図書館の利用、日本語指導の必要な外国籍の生徒への指導などについて質問があった。 ○ 授業中にスマートフォンをさわる生徒や居眠りをする生徒、私語をする生徒が目立つとして授業規律の向上についてご意見をいただいた。一方で昨年度、授業見学した時よりも生徒が落ち着いているように見えたというご意見もいただいた。 <p>第 2 回 (11/1) 第 1 回授業アンケート (7 月実施)、生徒生活実態アンケート (7 月実施) の結果と考察、学校教育自己診断 (11 月実施予定) について説明を行い、その後、各分掌より取組みの進捗状況について資料を示して説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教務部 令和 2 年度使用教科書一覧を提示し承認を得た。ゼロ限授業の受講人数が少ないことについて報告したところ、日本語指導にゼロ限授業はあるのか質問があった。 ○ 生徒指導部 新たな取組みについての現状と行事出席率の向上について報告した。また、部活動の活性化や授業中の校外への外出、居場所としての図書館のありかたなどの課題についても報告を行った。生徒へのアプローチを様々な角度から行うことや教員の生徒への接し方などを見直すことについてご意見をいただいた。 ○ 進路指導部 様々な取組みの報告について、1・2 年生のような早い時期からの職業への意識づけには評価いただいたが、4 年生については進路を考えるきっかけとはなっていないので工夫が必要とのご意見をいただいた。 <p>第 3 回 (1/24) 今年度の取組みの結果の報告と各種アンケートの結果と分析について報告を行った。H31 学校評価と R2 学校経営計画について提示し承認をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 0 限目の活用の仕方、高校での「総合的な探究の時間」の内容について、生徒会の活動の具体的な内容について、質問がなされた。 ○ 保護者向け学校教育自己診断の回収方法として、新たに文化祭に来場した保護者への実施を行ったが、文化祭に来る保護者なら肯定的な意見が多くなるのは当然との指摘をいただいた。 ○ 働き方改革を求められている状況で、様々な取組みを省略していくのか、増やしていくのかについては、非常に難しい部分ではあるが、現状をよく分析して行うことが必要であるとのご意見をいただいた。

府立布施高等学校（定時制の課程）

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>個々の生徒に応じた確かな学力育成と授業改善の取組み</p> <p>ア 確かな学力の定着</p> <p>イ ICTの活用や授業改善による授業力の向上</p> <p>ウ 公開授業研究や・研修を通じた授業力向上</p> <p>エ 少人数展開・TTによるきめ細かな授業の継続</p> <p>オ 明確な授業作り</p>	<p>ア 生徒の学力に応じた学習内容を設定し、計画的に確かな学力を身に付けさせる。基礎学力の育成にゼロ時限を活用する。</p> <p>イ ICTなどを活用した授業、生徒の主体的協同的な学びを取り入れた授業を増やし、授業改善を行い、授業力の向上を図る。</p> <p>ウ 経験の少ない教員を中心に、公開研究授業・校内研修を実施し、個々の教員の授業力の向上を図り、わかりやすい授業をめざす。</p> <p>エ 少人数展開・TTのきめ細かな授業を継続し、理解しやすい授業づくりを推進する。</p> <p>オ ねらいの明確なシラバス作成、生徒につけさせたい力を意識した授業作りで、生徒にとって学習効果の高い授業を行う。</p>	<p>ア 基礎学力の定着が必要な生徒を受講させ、単位認定まで指導する。 H30 2人→H31 4人</p> <p>イ ICTを活用する教員数や授業数 教員数(構成比) H30 88.2%→H31 90%</p> <p>ウ 授業力向上のための公開研究授業実施(年2回)</p> <p>エ 授業アンケートの活用 ・授業理解度 H30 88.3%→H31 8割維持</p> <p>オ 授業アンケートの活用 ・知識・技能が身に付いた H30 82.3%→H31 8割維持</p>	<p>ア 新入生を中心に、担任団の協力を得て指導を行った。目標は達成できたが、基礎学力の定着が必要な生徒の一部に過ぎないのが現状である。(○) H30 2人→H31 4人</p> <p>イ 授業改善に伴い、ICTを活用する教員数や授業数が増加して、生徒の授業理解が深まった。(◎) H30 88.2%→H31 93.8%</p> <p>ウ パッケージ研修を活用し、初任者模擬授業、年2回実施した公開研究授業を授業改善の研修に結び付け、授業改善の効果を上げる事ができた。(◎)</p> <p>エ 学校全体として授業改善に努めた結果、目標を達成できた。(○) 授業アンケート「授業理解度」の肯定率 H30 88.3%→H31 89.5%</p> <p>オ 生徒に付けたい力を意識した授業作りで、授業の組立がはっきりし、生徒の意欲を高め、目標を達成することができた。(○) 授業アンケート「知識・技能が身についた」肯定率 H30 82.3%→H31 84.5%</p>
2 豊かな人間性と規範意識を身に付けた生徒の育成	<p>規律ある学校生活を通して、豊かな心を育成し、将来を切り拓く生きる力を育む</p> <p>ア 基本的生活習慣の確立</p> <p>イ 自尊感情(自己肯定感・自己有用感)の育成と人間関係づくり</p> <p>ウ キャリア教育・進路指導の充実</p> <p>エ 部活動や生徒会活動の活性化(加入率の向上)</p> <p>オ 18歳選挙権を見据えた計画的な政治的教養の育成</p>	<p>ア 基本的生活習慣の確立 欠席・遅刻・早退・欠課(中抜け)の防止、規範意識の醸成・授業規律の確立(携帯使用、飲食、私語)学習習慣の形成を図る。</p> <p>イ 計画的な取組みにより、生徒の参加意欲を高め、コミュニケーション力の育成と他者との豊かな人間関係づくりを図る。総学・行事・HRなど活動を通じて育成を図る。</p> <p>ウ キャリア教育・進路指導の充実 進学・就職希望者に対する進路指導の早期からの充実を図り、希望者の卒業時の進路決定率を高める。ハローワークや外部機関と連携を深め、計画的な進路指導を行う。</p> <p>エ 部活動や生徒会活動の活性化を図り、主体的な取組や自尊感情高揚の機会と生徒を育成する。</p> <p>オ 政治的教養の育成を計画的に実施するとともに、社会の一員として求められる判断力の育成についても計画的に指導を行う。</p>	<p>ア 中退、再履修(留年)、長欠を各々10%低減する(目標)</p> <p>年間登校率 H30 79.4%→H31 8割維持 年間遅刻数(のべ人数) H30 4504 → H31 4000 中退(人) H30 13 → H31 10 再履修(留年)(人) H30 10 → H31 9 長欠(30日以上欠席)(人) H30 36 → H31 32 ※滞留生(長欠者)の在籍確認</p> <p>イ 学校教育自己診断・行事が工夫されている H30 69.9%→H31 72%</p> <p>ウ 相談件数や各学年向けガイダンス実施件数(各学年3回以上を計画実施) 就職希望者・進学希望者の進路決定率 目標:85%以上</p> <p>エ 部活動の活動状況検証 加入率40%台の維持(目標)</p> <p>オ 計画を作成し、地歴公民の授業内で、育成する。(現代社会で2時間以上扱う)</p>	<p>ア 学校全体としての取組みの成果ではあるが、改善の余地が見られる。さらに指導を押し進めたい。(○)</p> <p>年間登校率 H30 79.4% → H31 84.2% 年間遅刻数 H30 4504 → H31 3201 中退者数 H30 13 → H31 15 再履修者数 H30 10 → H31 6 長欠者数 H30 36 → H31 41</p> <p>イ 計画的な取組みや分掌と学年団の連携により、文化祭前での調査に関わらず、目標を達成できた。(○) 生徒学校教育自己診断「行事が工夫されている」 H30 69.9%→H31 72.9%</p> <p>ウ 進路指導の取組みは充実してきているが、結果に結びついていない。キャリア教育の視点を学校全体で持つ必要があると考える。(△) (H31 進路決定率 75.0%)</p> <p>エ 少ない教員数と部活動指導以外の放課後の業務の煩雑さなどから、部活動指導にあたる教員の確保が難しい状況となり、加入率が下がる結果となった。新たな対策を考え、次年度に臨みたい。(△) 部活動加入率 H30 44.1% → H31 38.8%</p> <p>オ 現代社会の授業内において、模擬選挙も含め3時間実施した。(○)</p>
3 生徒支援と安全安心な学校づくり	<p>生徒の個に応じた支援と、生徒が自分らしく安心して通える学校づくりの取組み</p> <p>ア 健康安全教育の推進(生徒および教職員の健康増進と安全確保)</p> <p>イ 問題事象等への迅速で適切な対応</p> <p>ウ 人権教育の推進(様々な人権課題への取組み)</p> <p>エ 教育相談と配慮を要する生徒支援の充実</p> <p>オ 家庭、地域との連携推進と開かれた学校づくり</p>	<p>ア 健康安全教育の推進 薬物、性感染症、喫煙、防犯防災、虐待、交通安全等、重要課題について防災訓練や健康HR等を通じて啓発を図る。特に喫煙については、禁煙の指導を強める。 また、教職員自身の健康管理にも注意し、過重な負担が特定、または全体にかからないよう、業務内容の見直しを進める。</p> <p>イ 全教職員が一致団結した協力体制を構築し、問題事象の防止に努め、発生時には適切な組織的対応を図る。</p> <p>ウ 人権HRの充実を図り、生徒の人権意識を高める。教職員には校内研修等の実施により、人権問題への理解を深める。</p> <p>エ 教育相談の充実と支援コーディネータを中心とした支援教育のための校内委員会活動を展開するとともに、高校生活支援カードの活用や、個別の教育支援計画の作成を行う。</p> <p>オ 家庭、地域と連携して、保護者会活動を活性化させる。中高連絡委員会を核にして中学校訪問などにより情報共有を行う。広報紙の定期的な発行配布やHPの充実による情報発信を行う。授業アンケート、学校教育自己診断、生活実態調査を実施し、結果を学校運営に反映させる。</p>	<p>ア 生徒のHR出席率の向上 75%以上が目標 ・教職員による防災訓練を毎年実施して防災体制の強化に努め、緊急時の対応を確実に行う。 ・行事の精選や仕事内容・分担の見直しに着手する。</p> <p>イ 懲戒件数低減(目標) H30 9件→H31 一桁の維持 ・非常時には、准校長の指揮のもと、生活指導部長を中心とした組織的な指導体制で対応する</p> <p>ウ 学校教育自己診断 ・人権意識が高まる H30 66.7%→H31 70%</p> <p>エ 学校教育自己診断 ・先生に気軽に相談できる H30 63.0%→H31 65%</p> <p>オ 「布施定だより」の発行 生活実態調査の活用 ・学校へ行くのが楽しい H30 55.3%→H31 60%</p>	<p>ア 学年やLHR委員会を中心にHRの内容をしっかりと考え、生徒のHR出席率の向上に結び付いた。(○) (年度末 77.0%) ・毎年実施している防災訓練に加え、全日制と合同で防災研修も行った。全日制との連携は今後も検討していきたい。(○) ・行事の精選や仕事内容・分担の見直しについては、現状の把握にとどまった。次年度は何らかの対策を講じたい。(△)</p> <p>イ 懲戒件数については目標を達成できなかったが、生徒指導マニュアルの改訂をはじめ、生徒指導体制が整いつつある。次年度は生徒指導部を中心に、学年とも連携しながら指導の定着を図る。(△) H30 9件→H31 14件</p> <p>ウ 目標は達成できたが、課題は多い。4年間を視野に入れた計画的な取組みが必要である。(○) ・人権意識が高まる H30 66.7%→H31 70.0%</p> <p>エ 目標は達成できた。スクリーニングシートの活用も始まり、次年度はさらなる生徒支援の充実を図る。(○) ・先生に気軽に相談できる H30 63.0%→H31 72.7%</p> <p>オ 「布施定だより」の定期発行による情報発信に加えて、学校運営協議会では生活実態調査をもとに本校生徒の分析などを行った。次年度はHPや准校長ブログなどによる情報発信をより積極的に行う。(○) ・学校へ行くのが楽しい H30 55.3%→H31 67.2%</p>